

提案型協働事業報告書

<p>1 該当する町の施策方針</p>	<p>「22のめざすべきまちの姿」 安心して子どもを生む育てることができるまち 高齢者や障害者がいきいきと暮らせるまち 「61の施策方針」 子育ての悩みや不安を取り除く 障害者の自立を応援する</p>
<p>2 解決へ向けて取り組んだ地域課題</p>	<p>被虐待児の約6割は発達障がい児と考えられている。この数字に発達障がい児の子育ての困難さが表れているのではないだろうか。 発達障がい児の子育ては、「指示が理解できにくい」「環境に左右されやすい」等の原因から、物事を教えにくく、子育てのしにくさから保護者へのストレスが大きいと考えられている。そのため、虐待に繋がるケースも少なくない。 では如何にして、保護者に対して発達障がい児の子育てスキルを培ってもらうことが必要だと考えるが、武豊町の場合、障がい児に対しての支援機関があるが、発達障がいの子育てに関して方法を伝える機関が多くはない課題があげられる。</p>
<p>3 協働対象部署</p>	<p>子育て支援課・保健センター・福祉課</p>
<p>4 事業の内容等</p> <p>(1) 事業内容と方法 (2) 実施場所 (3) 対象者 (人数等具体的に) (4) 事業PRの方法 (5) その他</p>	<p>(1)保護者に対して子育てスキルを身に付けてもらう手法として他地域で実践されたり、厚生労働省も推奨している『ペアレント・トレーニング』というグループワークの連続講座を開催する。 参加人数：4人 講座回数：回/2時間で全4回の講義+グループワーク 時間帯：平日の午前中に隔週で実施 託児：託児が必要な場合もあると思われるので、日本福祉大学の学生等のボランティアで託児の対応を行う。 配慮：『発達障がい』と明記してしまうと、発達障がいに対しての無理解から誤解を生じて、参加までに繋がらないことがあると考えられる。障がいを受容しきれていない保護者のために『発達障がい』とは明記せず、『気がかりな子』という表現を行うことにより保護者の心情を考慮する。</p>

	<p>以下を4回の主な内容とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>題名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション・子どもの行動を理解しよう</td> <td>オリエンテーションと家庭で行う目標を考える。子どもの行動を理解する。</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>強化と記録の大切さ</td> <td>子どもに褒めることで次に繋がることを伝える。</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>関わり方の工夫</td> <td>目標を達成するに当たり、どのようにすればいいかを考える。</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>褒めると叱るを考える</td> <td>褒めることと叱ることの意味を伝える</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 武豊町保健センター (3) 「あおぞら園」「特別支援学校、学級」を中心に在籍している3歳児から小学生低学年の子を持つ保護者 (4) 保育園、あおぞら園、親子遊び方教室、児童館にてチラシを掲示。その他広報誌・HPに記載。学校教育機関にチラシを掲示。</p>	回	題名	内容	第1回	オリエンテーション・子どもの行動を理解しよう	オリエンテーションと家庭で行う目標を考える。子どもの行動を理解する。	第2回	強化と記録の大切さ	子どもに褒めることで次に繋がることを伝える。	第3回	関わり方の工夫	目標を達成するに当たり、どのようにすればいいかを考える。	第4回	褒めると叱るを考える	褒めることと叱ることの意味を伝える
回	題名	内容														
第1回	オリエンテーション・子どもの行動を理解しよう	オリエンテーションと家庭で行う目標を考える。子どもの行動を理解する。														
第2回	強化と記録の大切さ	子どもに褒めることで次に繋がることを伝える。														
第3回	関わり方の工夫	目標を達成するに当たり、どのようにすればいいかを考える。														
第4回	褒めると叱るを考える	褒めることと叱ることの意味を伝える														
5 事業実施により得られた効果	<p>参加者、4名中3名が行動目標を立てて、目標を達成できた。最初は、子育ての中で子どもの目標を立て、それを実行し、記録に留めることは不慣れなので戸惑う部分も多かったようだが、最後には講座を通して、褒めることの大切さや子育ての対応を見直す機会になってよかったとの意見をもらえた。</p> <p>それ以外としては、今まで、保健センターとは緩やかな関係があったものの、教育機関との関係があまりなかった、今回の講座を受けて少しだが学校関係者と繋がりが作れた。</p>															
6 次年度以降の事業展開	<p>今回は、講座の参加者が少なかった。一因としては保健センターの職員が講座を主で動かすのであれば、日頃関わる親の参加が見込まれた。しかし、今回の主催はPaka Pakaということで日頃関わりの薄さから、連続講座まで足を運ぶことまでは至らなかった。今後はPaka Paka 独自で、連続講座に繋げるまでのワンクッションとして親が参加しやすい1回だけの講座を行い、その後に連続講座を持ってくるような形式で行いたい。</p>															
7 その他																

※ 記入欄が不足するときは、別紙を添付してください。